

QOL共創研究所開所

健診普及拡大とビッグデータ解析

健康寿命の延伸目指す



弘大×明治安田

弘前大学と明治安田（明治安田生命保険相互会社・明治安田総合研究所の総称、ともに本社東京都）は、研究活動を強化する連携拠点「明治安田×弘前大学 QOL（生活の質）共創研究所」を開所し、5日に弘前大医学部で設置開所式を行った。同大初の共創研究所は4月1日付で設置。同大が開発し、明治安田が全国展開する啓発型健康診断「QOL健診」の普及拡大と、同大が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の健康ビッグデータの研究解析を進め、地域の健康寿命の延伸、QOL向上の実現を目指す。（稲葉智絵）

弘前大はこれまで花王やNEC、マツダなど24社と共同研究講座を開設。同大COI-NEXTを拠点に、健康増進、地域課題の解決に向けて医療やヘルスケア分野にとどまらない多角的な研究を進めてきた。

産学官連携の新拠点となる共創研究所は、新たな価値を創出する共同研究、研究成果の社会実装、人材育成の充実を図るとともに、社会発展の寄与を目的としている。同講座1講座当たりと比較すると、研究などの活動費が4倍に増額、設置期間が最長10年に延長される。同大町キャンパス内に新設された「グローバルWellbeing総合研究所」を研究拠点とし、企業側の研究員が運営総括責任者（研究所長）を務める。

明治安田は県内外の自治体と連携協定を締結するなどして、顧客や地域の健康増進を応援する「みんなの

弘前大初の共創研究所が開所し、看板を手にする福田学長（左から2人目）と加藤フェロー（同3人目）ら

健活（健康に向けた前向きな活動）プロジェクト」に取り組んできた。2018年からは弘前大に共同研究講座「未病科学研究講座」を設置し、疾患の予兆発見などにつなげる研究に着手。昨年からQOL健診の全国展開に力を入れてきた。

QOL共創研究所長を務める明治安田の加藤大策フェローは共同研究講座での成果を「保険に加入する顧客らの健康意識の向上、生活改善につながっている。さらに、QOL健診を（従業員も含め）約2万人が受診した」と説明。共創研究所では①QOL健診の普及拡大と項目間の相関分析②岩木健診の健康ビッグデータの解析による健康行動の実践順序の解明に取り組む考えを示し、「グループ会社も含めた会社全体で研究に取り組み、その成果を社会に還元していきたい」と力を込めた。

福田眞作学長は国が推進する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」が4月から始動したことに触れ、「弘前大ではQOL健診の国内外への展開を目指しており、共創研究所の設立は大きな一歩」と期待を寄せた。